校長室だより

２０２２年１１月１１日
校 長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

学校 HP

おうちへ帰ろう

私が現在の場所に新築で居を構えたのは，今から２３年前で，上の娘は８歳で，下の娘は３歳のときでした。

それまで住んでいた借家は，当時，築２０年以上の平屋の一戸建てで，ボロボロでした。その家で，結婚以来，現在の家に転居するまで暮らしていました。娘たちは２人ともその家で生まれ，特に下の娘が生まれてからの３年間は，狭くてもボロくても，家族４人で身を寄せ合いながら暮らす「楽しい我が家」でした。今，思い返してみても，あのボロボロの家は，幼い娘たちと，まだ若く未熟な親であった私たち夫婦が，お互いを必要とし合いながら共に成長した場所であり，その思い出は，家族の原点とも言える温かく大切な記憶です。

そのボロボロの家から，家族そろって新居へと引っ越したばかりの頃，娘たちは２人とも，新しい家に大喜びでした。新しい家具が入ったり，大きなテレビを買ったり，娘たちの部屋に二段ベッドを置いたりなど，転居後暫くの間は，雑然とした中でもわくわくしながら過ごす日々でした。娘たちも，新しい家で毎日楽しそうに過ごしていましたが，一週間ほどたったある日，保育園から帰ってきて夕飯を食べた後，下の娘が真剣な表情で言いました。

「おうちへ かえろうよ。」

上の娘は「ここが おうちでしょ！」と言いながら笑っていましたが，私も妻も，胸が詰まって言葉になりませんでした。「この子にとっては，あのボロボロの家が掛け替えのない『おうち』であり，そこに帰りたがっている。今はもう戻ることができないあの家での暮らしが，家族の大切な思い出なのだ。」と，しみじみと感じました。

この新しい家で，また家族４人で温かい思い出を作っていこう。娘たちにとって大切な心のふるさとになるよう，親として責任を持って努力していこう。改めてそう強く感じました。

安心できる大切な場所は，他から与えられるものではなく，そこで時間をかけて信頼関係を築きながら，自分たちで作り上げていくものなのだと思います。学校という場所が子供たちにとって安心できる場所になるためにも，日々の学校生活の中で教職員と子供たちとの信頼関係を深めながら，時間をかけて大切な思い出を積み重ねていくことが必要です。

それぞれのご家庭には及びませんが，子供たちにとって郡山小学校が，「おうち」の次に安心できる場所となるよう，職員と協力して，子供たちと共に，日々努力して参ります。

切 り 取 り 線

子供たちのための，意見・提案・要望・校長に知らせたいこと　など

2022 年 11 月 11 日（　）年（　）組 児童氏名

※匿名でも結構ですが，御連絡が必要な場合等を考え，記名していただけるとありがたいです。
※担任に御提出いただいても，校長室前のポストに直接入れていただいても，校長に直接手渡していただいても，いずれでも結構です。
※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）